

決議（案）

22日から始まる TPP 閣僚会合を控え、日本の国益、国柄を損ないかねない動きがあるやの報道がある。

安倍総理は、昨年2月の日米首脳会談で、オバマ大統領との間で、「両国ともに二国間貿易上のセンシティブティが存在することを認識して交渉を進める」と共同声明をまとめ、我が国は TPP 交渉参加を決断した原点を忘れてはならない。

我々自民党は、自然的・地理的条件に制約される農林水産分野の重要5品目等や、これまで営々と築き上げてきた国民皆保険制度などの聖域の確保を最優先し、それが確保できないと判断した場合は、脱退も辞さないものとする決議を行っている。

加えて衆参両院の農林水産委員会も、農林水産分野の重要5品目などの聖域の確保を最優先し、それが確保できないと判断した場合は、脱退も辞さないものとすることを決議している。

自民党の決議も衆参両院の農林水産委員会の決議も、脱退を辞さないものとする極めて重い決意を込めている。

この間、安倍総理は、幾度にもわたり、「攻めるべきは攻め、守るべきは守り、国益にかなう最善の道を追求する」と言明されてきている。国民も、我々も、総理の言葉を信じている。

我々は、改めて、政府に対して、党の決議、国会の決議を守り抜くことを強く求めるものである。

以上、決議する。

平成26年2月20日
TPP 交渉における国益を守り抜く会